男子浦商V、女子は那覇西

ハンドボール 高校春季大会

ハンドボールの第15回KBC学園杯争奪第49回県高校春季選手権は16日、八重瀬町東風平体育館で決勝を行い、男子は浦添商が那覇西を延長戦の末に35−33で下し、優勝した。女子は那覇西がコザに21−18で勝利し、頂点に立った。3位は男子が北中城、女子は前原だった。

【男子】
▽3位決定戦
北中城 24（11−9、13−11）20 那覇国際
▽決勝
浦添商 35（14−9、13−8）33 那覇西

【女子】
▽3位決定戦
前原 28（14−6、14−6）12 首里
▽決勝
那覇西 21（13−5、8−13）18 コザ

浦商粘り、延長制す

ハイライト

シーソーゲームの延長戦で浦添商が粘り勝った。新里秀斗主将は「自分の中では圧勝が目標だったが、勝てたことは素直にうれしいと安堵（あんど）した。

堅実に得点を重ねて14−9で折り返したが、後半に風向きが変わった。相手守備がマンツーマンとなり、対応が遅れてシュートやパスのミスが続いた。相手に流れを渡して詰められるも、土壇場で踏ん張り延長戦へ。

吉野結輝は1対1で攻め入り好機を広げ、渡辺周は相手エースと体格差がありながらも堅守を徹底した。新垣瑛太郎は「自分が崩れたら負ける。やるべきことをやる」と、好機でシュートを決めきった。終わってみればチーム最多16得点と、大車輪の活躍だった。

那覇西は初戦から接戦を制してきた粘り強いチームだったが、練習の成果を発揮して最後に振り切った。昨年12月には興南に2度の延長戦で敗れ、2月の九州大会では終盤で粘れず敗戦した。そこからチームは走力を強化してきた。新垣は「延長で勝ちきることができたのは一番意味があった」と感慨深い様子だ。

ライバルの興南は、全国選抜のため今大会に出場していない。メンバーは打倒興南を掲げ、県総体優勝を誓った。（名波一樹）

豪快なシュートを放つ浦添商の新垣瑛太郎（中央）＝16日、八重瀬町東風平体育館（名波一樹撮影）

厳しいディフェンスを見せる那覇西の（右から）前田杏樹、我那覇凜子、神谷ピノ＝16日、八重瀬町東風平体育館（名波一樹撮影）

那覇西、堅守立て直す

○…一度崩れた堅守を立て直し、女子那覇西が競り勝った。我那覇凜子主将は「苦しいところもあったが優勝できてほっとしている」と話した。

横一線に並んだ守備で相手をシャットアウトし、難しい位置でのシュートに追い込む。前半終了時点で13−5と、堅守で失点を一桁に抑え込んだ。

しかし後半に堅守がほころび連続で失点をした。それでも「我慢して1本守ろう」（我那覇主将）と再び気迫の守備から速攻につなげて盛り返した。

得点源の前田杏樹は厳しいマークにあっても、好アシストで貢献。我那覇ともにチーム最多タイの得点を挙げた。前田は「この大会は通過点。最後の県総体で優勝して全国へ」と先を見据えた。（名波一樹）

男子優勝の浦添商＝16日、八重瀬町東風平体育館

女子優勝の那覇西＝16日、八重瀬町東風平体育館

ⓒ琉球新報　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します